

## 会 議 録

会議の名称	令和6年度 第2回 所沢市地域福祉推進委員会
開催日時	令和7年1月21日（火）10時00分 ～ 11時45分
開催場所	所沢市こどもと福祉の未来館1階 多目的室1・2号
出席者の氏名	中島 修（委員長）、荒井 由佳子、大倉 美奈子、菊池 芳久、古賀 真美子、高橋 祐二、高柳 進、納富 信夫、吉田 早苗、村澤 洋
欠席者の氏名	赤坂 悦（副委員長）、内山 直樹、大島 隆代、小松 君恵、田中 保三
説明者の職・氏名	地域福祉センター 主査 新井 一也、主任 竹村 俊朗
議 題	(1) 第3次所沢市地域福祉計画の進捗状況（令和5年度実績）について (2) 第4次所沢市地域福祉計画の策定について (3) その他
会議資料	<p>【配付資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 会議次第</li> <li>・ 資料1 令和6年度第2回地域福祉推進委員会</li> <li>・ 資料2 第3次所沢市地域福祉計画 進捗管理表（指標一覧表）</li> <li>・ 令和6年度所沢市こどもの居場所セミナーのチラシ</li> <li>・ ブックオフ「キモチと。」のチラシ</li> </ul>
担当部課名	福祉部 地域福祉センター 電話04（2922）2115 前田福祉部長 畑中福祉部次長 細田センター長 新井主査 伊藤主査 竹村主任

様式第2号

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
事務局	<p><b>1 開 会</b></p> <p>開会を宣言した。</p> <p>○欠席者の報告 赤坂委員、内山委員、大島委員、小松委員、田中委員</p> <p>○令和6年7月1日付けで委嘱された吉田委員の委嘱状を交付した。</p> <p>○傍聴希望者の有無 1名</p> <p>○資料の確認 配付資料を確認した。</p>
中島委員長	<p><b>2 開会挨拶</b></p> <p>令和6年4月から孤独・孤立対策推進法が施行され、様々な場で孤独・孤立の問題が議論になっている。先日、豊島区の職員を対象とした研修会があり、福祉分野に限らず多くの課の課長に参加いただき、演習を行った。豊島区は、単身世帯が非常に多く、孤独・孤立の問題を全庁的に考えなければならない状況となっている。この問題は所沢市も他人事ではなく、単身世帯を中心に若年層まで孤独・孤立が広がっているという状況である。このような状況において、地域福祉の取組みがより一層重要になるので、忌憚なきご意見をいただきたい。</p>
事務局	<p><b>3 議 題</b></p> <p><u>（1）「第3次所沢市地域福祉計画の進捗状況（令和5年度実績）について」</u></p> <p>資料1及び資料2により、第3次所沢市地域福祉計画の令和5年度の実績のうち、前回報告時に暫定数値であったもの並びに訂正があったものについて報告。</p>
中島委員長	<p>資料2の指標に「障害者就労施設等からの物品等の調達実績額」とあるが、市内の障害者就労支援施設等からの物品購入を所沢市として積極的に行っているということか。</p>
事務局	<p>そのとおり。</p>
納富委員	<p>「障害者就労施設等からの物品等の調達実績額」の令和5年度の「指標に対する評価、傾向」に、「新たに調査業務を特例子会社に委託したことにより、実績が増額した」とあるが、もう少し具体的に説明して欲しい。</p>
中島委員長	<p>一般企業の中には特例子会社を作ること、障害者の雇用を創出するという取組みを</p>

事務局	<p>行っている企業もある。</p> <p>例えば市から通知を出す際に、ラベルを貼るといような作業ができる障害者を雇用している事業者があれば、市として積極的に活用するよう努めている。令和6年4月から事業者による障害者への合理的配慮の提供が義務化されたため、市においても内部で周知し、委託事業者等への理解の浸透に努めている。</p>
納富委員	<p>そのような取組みがより一層増えていくと心強く感じる。</p>
中島委員長	<p>現行の計画は中高生にも調査を行う等、若年層も意識したものとなっているが、孤独・孤立に関連した話をすると、不登校の子供の数は過去最多となっている。また、いじめによる自殺の件数も高止まりの状況にあること等を踏まえ、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの配置のための予算が文部科学省で確保された。孤独・孤立が深刻化し、小さい子供から子育て世代にまで広がってきている。</p>
高橋委員	<p>社会福祉協議会のCSWに、各学校のスクールソーシャルワーカーから子供の居場所についての相談が多く寄せられる等、子供に関する問題が多くなってきていると感じている。そのようなこともあり、CSW、民生委員、ボランティア等が連携しフードパントリー、子供食堂、学習支援等の取組みを32の全小学校区で立ち上げた。社会福祉協議会としても、CSWを中心に地域の方と連携しながら子供の居場所づくりに引き続き取組み、子供が安心して暮らし続けられる街づくりを推進していきたい。</p>
村澤委員	<p>子供を取り巻く状況を聞いて驚いている。自身も子育ての経験があるが、ますます子供が育てづらくなっており、若者が経済的な理由から子供を持つ自信が持てなくなるといふ悪循環に陥っていると感じる。また、日本語が話せない外国籍の方も肌感覚として非常に増えており、教育が非常に大事なのではないかと感じている。</p>
中島委員長	<p>近年、非常にグローバル化が進んでおり、外国人労働者が増えている。子育てのしづらさについては、様々な要因があると考えられる。文部科学省が毎年、児童生徒の問題行動等に関する調査を行っているが、コロナ禍を契機に件数等が過去最多の水準で推移しており、学校現場も非常に大変な状況となっている。</p>
高橋委員	<p>日本語が不得意、日本文化になじめていないという外国籍の方は多くいる。学校から配布される資料が読めないという相談の場合は、日本語を教えているボランティア教室等を個別に紹介している。</p>
高柳委員	<p>以前は、生涯学習推進センター等で開催される市民向け講座に参加した人が、それぞれグループで活動を始め地域に還元していくという流れがあったが、それがなくなってきてしまっている。自身が住んでいる地域では世帯数が増えているものの、自治会を退会する人もおり、自治会の担い手不足が課題となっている。地域の祭りの開催にあたっ</p>

中島委員長	<p>では、若い世代にも役割を担ってもらえるよう接し方に工夫を重ねている。また、地域では防犯パトロールも力を入れており、安心安全な街づくりを進めていきたいと思っている。</p> <p>地域においては、防犯への関心も高まっていると感じられる。また、コロナ禍を契機に表面化したことの1つとして、外国籍の方の相談が急増したことが挙げられる。外国籍の方にとっても安心して暮らせる環境ということについては、今後も議論していく必要がある。</p>
事務局	<p>(2) 「第4次所沢市地域福祉計画の策定について」</p> <p>資料1により、次期計画策定にかかる留意点等について説明。</p> <p>【概要】</p> <p>次期計画の策定に際しては以下のポイントを意識しながら策定を進めていきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者の増加と働き手の減少が避けられないことを前提に、これからの「市」「社協」「地域住民」における地域福祉の推進のための役割・取組みを考えていくこと。</li> <li>・単身世帯がスタンダードとなる等、世帯構成の変化に対応した支援のあり方を検討していかなければならないこと。</li> <li>・社会構造の変化により表面化する課題に向き合うべき主体には、市や社協等のみならず、地域住民ひとりひとりも含まれること。</li> <li>・福祉、子ども、保健医療等の分野の上位計画として、各分野に共通する重要な考え方、方向性等を明確に示すこと。</li> <li>・地域福祉の推進をより効果的に進めるために、次期計画が市民や様々な関係者にとってよりわかりやすいものであること。</li> </ul>
中島委員長	<p>今後の単身高齢者の増加に伴って様々な変化が起こる。例えば障害者の親、障害者自身も高齢化する、あるいは親が亡くなって単身の障害者も増えるかもしれない。資料1にも示されているが、若い世代の単身世帯が増えていくと、若い世代の孤独・孤立という問題も出てくる。コロナ禍以降、30代の不安感が非常に高まっていると言われており、所沢市においても孤独・孤立が重要なテーマとなってくると考えられる。</p>
大倉委員	<p>単身高齢者には、入院や施設入所のための保証人がいないという問題、看取りの問題、また、障害者の親なき後の問題等、様々な問題が今後起こりうる。相談を受けて身元保証団体を紹介することもあるが、身元保証団体が適切に対応しているかどうかは、それぞれの団体に委ねられている部分もある。単身高齢者が安心して最期を迎えるためにはどうしたらよいか、ということを考えていかなければならない。また、認知症になっても、地域で安心して住み続けられるような体制についても考えていかなければいけない問題だと考えている。</p>
中島委員長	<p>所沢市ではエンディングノートを作成したが、そのような取組みを通じて終末期のイメージを作ることにより、不安感が少なくなることを期待したい。</p>

荒井委員	<p>仕事で医療や介護の電話相談に携わっているが、コロナ禍をきっかけに、一人暮らしであることを不安に感じている、という相談が非常に増えてきたと感じている。事情があって子供には頼れないという方もおり、地域で支えていかなければならないと感じている。高齢化に伴い認知症の方が増えてくるのは当然のことなので、それにどのような対応していくのか、ということを考えていかなければならない。</p>
古賀委員	<p>自分自身が住んでいる地域でも高齢化を実感している。若い世代を増やしていくことが重要ではないかと思う。</p>
菊池委員	<p>人それぞれ生活スタイルが異なるので、それを踏まえてどのような地域福祉計画を作るかは、非常に難しいと捉えている。また、高齢になればなるほど、障害の程度が重ければ重いほど、住まいを確保することが難しくなるので、住まいの確保は非常に重要なテーマだと感じている。単身世帯がスタンダードになると事務局の説明にあったが、住まいという面でどのような取組みをしていくのかということが現時点で具体的に見えないので、今後その点についても検討を深めていけると良い。</p>
中島委員長	<p>住民一人ひとりの意識が個別化する中で、共通事項を示す計画を策定していかなければならない難しさはあるが、その中でも住まいは高齢者、障害者、若者等に共通するテーマとして検討していくことが重要である。</p>
吉田委員	<p>様々な支援に契約がついてまわるが、契約に行きつくまでに時間を要するケースも多い。ケアマネージャーとしての日々の業務を通じて、市、社協、地域包括支援センター、ケアマネージャー等、お互いに顔の見える関係で連携して支援していかないと、必要な支援が行き届かないのではないかと感じている。</p>
中島委員長	<p>社会福祉協議会は成年後見制度にかかる中核機関を担っているが、単身高齢者の契約の問題は非常に大きな課題ではないか。</p>
高橋委員	<p>8050 問題やごみ屋敷問題等、一つの機関で解決することが難しいケースがある。民生委員が相談を抱え込んでしまうケースもあり、様々な関係機関が役割分担しながら皆で支えていける仕組みが必要だと考える。もちろん現場では既に連携して様々なケースに対応しているが、個人の力量や経験によって連携の度合いが左右されてしまい、埋もれてしまうケースもある。他機関と連携できる仕組みは、働き手側をも守ることにつながるので、次期計画の中で具体的に検討していきたい。</p>
中島委員長	<p>国の地域共生社会の実現に向けた在り方検討会議でも身元保証や終活に関する議論がされているが、単身化が進むと医療同意や住まい確保の際の保証人等、様々な場面で問題が出てくるため、これまでの枠組みにとらわれず検討を進めていく必要がある。</p>
高柳委員	<p>社会福祉協議会も財政的に厳しい状況にあるため、自治会・町内会としても貢献して</p>

<p>納富委員</p>	<p>いきたいと考えている。社会福祉協議会も自治会・町内会を活用してPRに力を入れてほしい。</p> <p>自分自身も任意後見制度の手続きを調べたが、非常に大変な思いをした。もう少し手続きが簡略化されて周知されれば高齢者にとって安心材料になるのではないかと感じている。</p>
<p>中島委員長</p>	<p>成年後見制度には、例えば、一度成年後見人が選任されると制度利用を自由にやめることができない等、その運用において硬直的な面がある。施設入所契約のときのみ、というように有期で制度利用ができる仕組み等、国でも法改正の検討が進められているので、より柔軟な利用しやすい制度になることを期待したい。</p>
<p>村澤委員</p>	<p>税収を増やすためには人口を増やす必要がある。その1つの案として、鉄道をより利用しやすくし、利便性を向上させることで人口が増えるのではないか。所沢市は土地が安く自然豊かで災害が少ない街であるため、PRに力をいれてはどうか。また、65歳以上の高齢者が仕事をし、一定以上の収入があると税金を取られ年金ももらえなくなってしまい、働く意欲が削がれてしまう面もある。しかし、70歳でも元気で働ける方も多くいるので、自助という意味で、元気で働ける人は働いた方が良くと思う。</p>
<p>中島委員長</p>	<p>働く意欲のある高齢者もいれば、年金では生活していけず、必要に迫られて働く高齢者もあり、両者ともこれから増えていくと推測される。一方、悩ましいのは、例えば民生委員もなり手の確保に苦慮しているという現状があるが、働く高齢者が増えると、地域活動に携わる高齢者が減るということも考えられる。高齢者にとって働くことはいきいきと過ごすということにも繋がる側面があるため、非常に難しいところである。</p>
<p>吉田委員</p>	<p>高齢者においてはフレイル予防のために、外に出て地域と交流することが重要である。長生クラブでも人数が減ってきており、担い手もなかなか見つからないという課題があると伺っている。そのような地域活動に参加するのが楽しみになるような取組みができないか、と思案しているところである。</p>
<p>中島委員長</p>	<p>かつての老人クラブは海外からも称賛されるような素晴らしい仕組みであり、生活支援体制整備事業が始まったときは精力的に活動されていたが、今では組織率が低下し担い手も不足する等、厳しい状況にある。</p>
<p>大倉委員</p>	<p>元気で働くことはフレイル予防の1つとして良いことだと思うが、地域活動に携わる人をどのように確保していくかという点で非常に難しさを感じている。包括としても第2層生活支援コーディネーターとして、地域活動への支援や地域づくり等に取り組んでいるが、担い手と場所の確保が課題となっている。場所の確保という点では、空き家の活用等、活動しやすい体制整備ということも重要なのではないかと考える。</p>

<p>中島委員長</p>	<p>体力的に難しくなってきたという理由で自治会等に参加しなくなる高齢者がその後孤立していく、という課題も国の孤独・孤立重点計画で取り上げられている。それまで地域で長く続いてきた繋がりが途切れてしまうのはもったいないと感じるが、一人ひとり体調等、状況が異なるので難しい。そのような状況になっても繋がりを維持続けられる仕組みを検討していけると良い。また、住まいや子供の問題、終活等、様々な検討課題が出たが、いずれも孤独・孤立と関連してくる。各分野の共通事項として孤独・孤立をどのように考えていくか、国や先進自治体等の動きを見ながら検討を進めていけると良い。</p> <p>(3) 「その他」</p> <p>【社協配付物について】</p> <p>以下の配布物について高橋委員から説明した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和6年度所沢市こどもの居場所セミナーのチラシ</li> <li>・ブックオフ「キモチと。」のチラシ</li> </ul> <p>【次回会議日程】</p> <p>令和7年5月30日（金）、午前10時～</p>
<p>事務局</p>	<p><b>4 閉会挨拶</b></p> <p>前田福祉部長が閉会の挨拶をした。</p> <p><b>5 閉 会</b></p> <p>閉会を宣言した。</p>

